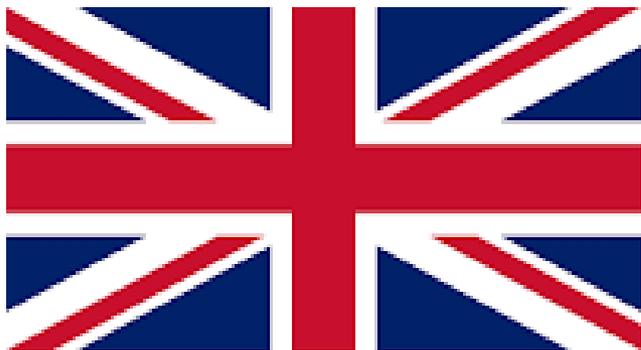


イギリス(英国)よもやま話

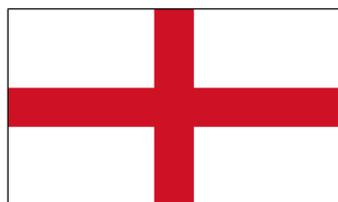


アジア研究会 松尾基昭

2023年1月18日 定例会

イギリス地図





イングランド
(聖ジョージ旗)

+

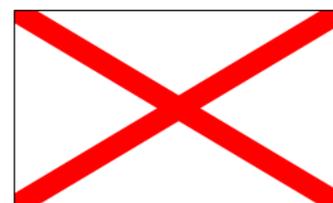


スコットランド
(聖アンドリュー旗)



初代ユニオンフラッグ
(1603年制定)

+



アイルランド
(聖パトリック旗)



現行ユニオンフラッグ
(1801年制定)

私の略歴

(海外業務)

貿易為替実務
為替ディーリング
外国為替営業

(海外駐在)

ロンドン	(1981年～1987年)
香港	(1991年～1993年)
シドニー	(1994年～1997年)

1. イギリス(英国)とは

- ・ 構成国

イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド

- ・ 歴史

ローマ国軍侵攻、ゲルマン民族大移動、7王朝時代、ノルマンコンク
エスト、マグナカルタ、清教徒革命、名誉革命と権利の章典
連合王国誕生、ナポレオン戦争、産業革命、日英同盟、第1次、第2次
世界大戦、植民地独立、EC加盟、EU離脱

- ・ 人種 (起源)

アングロサクソン、ゲール人、ブリトン人

- ・ 言語

英語、スコットランド語、アイルランド語、ウェールズ語

- ・ 産業

金融、自動車、医薬品及び医療用品、航空機、電気機器、石油、ガス
⇒資料参照

2. イギリス（英国）の社会

- ・ 立憲君主制

「君臨すれども統治せず」、フランク1世

残るのは5王（スペード、クラブ、ハート、ダイヤの王とイギリスの王）

エコノミストの記事

- ・ エリザベス女王の果たした役割

コモンウェルスの首長（旧植民地53カ国） 人権問題、環境問題

人種差別問題（南アフリカ）

IRA問題

イギリス独立問題

- ・ 保守党と労働党

2大政党の限界（選挙制の問題）

- ・ 慣例法

- ・ 暮らし向き（伝統重視、規律・秩序、自由。大人の社会、ユーモア）

- ・ マスメディア

- ・ その他 芸術、スポーツ、芸能

3. 日本との関係

ウィリアム・アダムス（三浦按針）（1600年） 修好通商条約
生麦事件（1862年）、薩英戦争（1863年）、
薩長・幕府の留学生派遣（1860年代）
日英同盟（1902年、破棄1921年）、第一次、第二次世界大戦。皇室外交

4. 国際社会での評価

- ・ 自由・資本主義の代名詞
- ・ 政治・軍事面での役割
- ・ 学術面（ネイチャー他、大学）

5. シティーの存在

- ・ シティーとは 国際金融の中心
- ・ 金と情報
- ・ 仕事・内容
- ・ プレイヤー ⇒資料参照

6. イギリスの政治動向（サッチャー政権を中心）について ⇒資料参照

7. 今後の英国について ⇒資料参照

8. 最後に

資料(1)

イギリス連合王国の概況

国名	首都	国名の由来	人種（主）	言語
イングランド	ロンドン	アングル人の土地	アングロ・サクソン	英語
スコットランド	エジンバラ	スコット人の土地	ゲール人	スコットランド語
北アイルランド	ベルファースト	西方の土地	ゲール人	アイルランド語
ウェールズ	カーディフ	外国人（異邦人）	ブリトン人	ウェールズ語

現在 人口統計（2020年）

単位：百万人

イギリス全体合計

67

イングランド

56.6

(84.3%)

スコットランド

5.5

(8.2%)

北アイルランド

1.9

(2.8%)

ウェールズ

3.2

(4.7%)

特徴的なこと

人口増加傾向（1970年 55百万人）

少子高齢化

移民者増加

イングランド 白人人口割合 70%

ロンドン 白人減少（2020年 人口割合50%未満）

多民族国家

言葉 英語（一部現地語）

資料(2) 支店の業務体制（当時）

1. 支店業務

（総勢 20～30名）

（注）証券業務

営業部門
非日系営業
日系営業

資金部門
資金調達
預け

管理部門
後方事務
総務

現地法人

2. 非日系営業の主な内容

（1）資金運用（融資）

取引対象 ソブリン（国）、州政府、公的銀行、国鉄、
ガス会社、航空会社、一部民間

取引形態 外貨建てローン（ドル、ポンド）、円建てローン
債券発行（私募）

シンジケートローン、プロジェクトファイナンス
具体例 ユーロトンネル、フランス共和国等

（2）デフォルト（返済不能）先の管理

ソ連、東欧（ハンガリー、ポーランド、ルーマニア等）、ガボン、
ナイジェリア等

3. 当時の状況（感想）

邦銀の大活躍時代（24行）

資料(3) イギリスの政治動向について

1. サッチャー以前

英国病と呼ばれ経済衰退（労働党政権） ゆりかごから墓場まで

2. サッチャー時代（1979年6月～1990年11月）

・ サッチャーリズム

新自由主義（フリードマン、ハイエク）を唱え規制緩和・民営化の推進

・ 政権の評価

内外に多くの影響を与える

・ フォークランド紛争（1982年3月） ・ 香港譲渡問題（1982年9月）

国会演説（支持率回復 選挙圧勝）

・ 名言

・ 余談

フォークランド紛争時の経験談（被害状況、戦争体験）

リバプール市への融資

資料(3)-2 イギリスの政治動向について

3. サッチャー後

- ・メージャー（保守党 1990年11月～1997年5月）
- ・ブレア（労働党政権 1997年5月～2007年6月）
- ・ブラウン（労働党政権 2007年6月～2010年5月）

4. 最近の政権

- ・キャメロン（保守党 2010年5月～2016年7月）
- ・メイ（保守党 2016年7月～2019年7月）
- ・ジョンソン（保守党 2019年7月～2022年9月）
- ・トラス（保守党 2022年9月～2022年10月）
- ・スナク（保守党 2022年10月～

資料(4) ブレクジット(EU離脱)

1. 離脱に至る背景

- ・主権の回復
- ・自由貿易の促進
- ・支出の削減（週350万ポンドの支払い）
- ・移民者の抑制

2. 交渉の経緯

- ・1973年にECに加盟
- ・国民投票により離脱決定
（2016年6月 51.89%、48.11%） キャメロン首相退陣
- ・離脱通知法案可決（2017年2月 2年後2019年3月に正式離脱）
- ・離脱協定案否決3回（最後の修正案否決2019年3月 6月メイ首相辞任）

資料(4)-2 ブレクジット(EU離脱)

3. 結果

- ・ ジョンソン首相就任 (2019年7月)
- ・ 特例法案により総選挙実施 保守党の圧勝 (ジョンソン首相)
- ・ 離脱協定案可決 (2020年1月)
- ・ 通商協定の合意 (2020年12月 無税、無枠)

4. 離脱にかかわる諸問題

- ・ 貿易額の減少
- ・ 移民労働者の減少 金融部門の雇用減少
- ・ 海外投資の削減
- ・ 独立問題 (北アイルランド、スコットランド)
- ・ 議会政治の限界